

長崎の寅年にちなむもの

本会会長 原田博二

新年明けましておめでとうございます。

本年は、寅年、それも壬寅(みずのえとら・じんいん)の年です。この壬寅というのは、“えと”とも呼ばれる干支(かんし)、すなわち、十干十二支の組み合わせからなっています。

この十干と十二支を組み合わせると、甲子(かつし)、乙丑(おつちゆう)、丙寅(へいいん)など60種にもなりますが、これを年にあてれば、甲子の年から癸亥(きがい)の年まで60年で一巡するのです。だから還暦というのは、例えば、今年、壬寅の年に生まれた人は、61年後に再び壬寅の年になることから還暦というのです。

寅(虎)年にちなむもの

長崎で寅の年にちなむものという、寅すなわち虎の絵があり、長崎虎と呼ばれました。南蛮屏風には檻に入れた虎を運ぶ様子などが描かれていますが、長崎だからと言って、虎をしょっちゅう見れたわけではありません。しかし、長崎の画家はどういうわけか虎の絵を得意としたのでした。

その代表が吉十郎こと、渡辺秀詮(1743～1824)、その虎の絵の特長は、縮(ちじ)み毛の虎と言われるように全身の毛を1本、1本、緻密に描くこと、さらには目玉、平面な目玉を球形にみせるため瞳を三日月形に描くことなどで、吉十郎の虎と呼ばれ、評判でした。



渡辺秀詮筆「虎図」(長崎歴史文化博物館収蔵)

寅年の出来事

長崎で起こった主な出来事を列举すると、慶長19年(1

614)はキリスト教禁止令が吹き荒れた年、高山右近ら148名がマカオやマニラに追放されたほか、長崎の11もの教会が破壊され、長崎における南蛮時代は終わりを告げました。寛文2年(1662)は、天然痘が大流行した年、天然痘で2318人が犠牲となりました。そこで、犠牲者の霊を弔うため建立されたのが本河内の無縁塔(市指定有形文化財)です。なぜ本河内かというと、当時は伝染病などは街道を通して入って来ると信じられたので、長崎の入口本河内に供養塔を建立したわけです。天保13年(1842)は、高島秋帆が逮捕された年、町年寄高島四郎太夫こと秋帆は、前年、江戸の徳丸ヶ原で洋式砲術の演習を行い、幕府より絶賛されましたが、無実の罪で江戸に護送されました。まさに天国から地獄。釈放されたのは、嘉永6年(1853)のことでした。嘉永7年(1854)は、ロシアのプチャーチンが三度(たび)長崎に来航した年、プチャーチンは、通商を求めて来航しましたが、アメリカのペリーの動向、さらにはクリミア戦争の真っ最中、イギリス軍艦の動向も気が気ではなく、それで長崎港を出たり入ったりしたのです。それとは知らぬ長崎の人たちがぶらぶら節に早速、「おロシアがぶーらぶら」と謡ったのでした。

寅年生まれの著名人

寅年生まれの長崎人、もしくはゆかりの人は、案外少なく、1830年生まれの池原香穉(いけはら・かわか)や同年生まれのフルベッキの2人です。香穉は、眼科医で、国学者、明治天皇の和歌の先生でした。フルベッキは、アメリカ・オランダ改革派の宣教師で、長崎では長崎奉行所管轄の済美館や佐賀藩校致遠館(ちえんかん)などで英語を教えました。

寅(虎)にちなむことわざ

寅(虎)にちなむことわざは、多いようですが、なかでも虎(とら)嘯(うそぶ)きて谷風(こくふう)至(いた)るは、類は類を呼ぶこと、「虎を画(え)いて狗(いぬ)に類(た)す」は、物事を学んでやりそこなうこと、真似(まね)をしても所詮(しよせん)、真似(まね)は真似(まね)、身につかないこと、「虎狼(とら・おおかみ)より人の口恐(おそ)ろし」は、虎も狼も怖(おそ)ろしいが、それより怖いのは人の悪口、「虎に翼(つばさ)」は優れたものがさらに力を得ること、「虎の尾を踏(ふ)む」は危ない橋を渡ること、虎口(ここう)を逃(に)げて龍穴(りゅうけつ)に入る」は危難(きなん)が次々に起こること、まさに一難(いちなん)去(い)って又一難(いちなん)です。

そこで本年は、虎の尾を踏んだり、虎口や龍穴など怖いことのない平安無事な年でありたいもの、そして描いた虎が狗(いぬ)みたいと言われぬ様、人の口程(くちほど)怖いものはないのですから、虎の威(い)をかることなく、虎吼(こ)えて谷風(こくふう)至(いた)るのごとく良き友(とも)を得ば、虎に翼(つばさ)、まさに鬼(おに)に金棒(きんぼう)です。本年も一致団結頑張りましょう。

改めまして本年もどうぞ宜敷(よろしく)お願いします。